

第35回 唐の社会と文化

1 唐の社会

・唐の都である（ ）は、国際色豊かな政治・経済の中心とであった。
→100万人の人口をかかえる世界最大の都市となっていた。

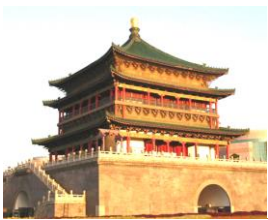
・オアシス都市を拠点に交易を行っていたイラン系の（ ）や、海の道を利用した交易を行っていた（ ）（アラブ人）も、中国を訪れた。

→（ ）・（ ）などの都市には、外国人居留区の蕃坊が置かれた。

※海上貿易を管理する役所である（ ）が、広州に初めて置かれた。

・城内には市が設けられ、城外にも草市という非公認の市場が作られた。

→飛銭という送金手形制度が生まれ、宋代に世界初の紙幣が生まれる下地となった。



西安の鐘楼

鐘楼の鐘によって、一斉に城門が開閉された。現在は観光スポットであり、夜はライトアップされて非常に美しい。



餃子の屋台

小麦の製粉技術も、シルクロードを通じて中国に入った。小麦粉を使った餃子などは、胡食と呼ばれて庶民に親しまれた。



阿倍仲麻呂の記念碑

西安(かつての長安)には記念碑があり、有名な歌が刻まれている。遣唐使として唐に渡り、科挙に合格して玄宗に仕えた。最後は節度使まで出世するという凄まじい人生である。

2 唐の宗教

・仏教ではインドから持ち帰られた仏典が中国語訳され、インドの仏教とは異なる仏教が誕生して、日本や朝鮮にも影響を与えた。

※天台宗、真言宗、禅宗、（ ）などは、この時期に盛んとなった。

・また西方から伝来した外来宗教の寺院も数多く建てられた。

<インドへ行った仏僧>

（ ）…唐の僧。7世紀前半、陸路で（ ）時代のインドを訪れて、ナーランダ僧院で学んだ。

→陸路で帰国し、持ちかえった仏典を中国語訳した。

→『 』という旅行記を書いた。

（ ）…唐の僧。7世紀後半、海路で分裂時代のインドを訪れた。

→海路で帰国途中スマトラ島の（ ）

に滞在し、『 』を書いた。



大雁塔

帰国した玄奘は、ここで仏典の翻訳を行った。高宗時代に建立されている。

<外来の宗教>

（ ）…ゾロアスター教の中国名。

（ ）…（ ）キリスト教の中国名。

→781年、大秦景教流行中国碑が建てられた。

摩尼教 …マニ教はウイグル人の間で流行した。

（ ）…イスラーム教の中国名。清真教ともいう。



清真寺

玄宗時代に建てられた。イスラーム教のモスクだが、中国風の造りになっている。

3 唐の文化

- ・唐の文化は、六朝時代からの貴族文化、北朝から隋唐への遊牧文化、シルクロードを通じて入ってくる西域の文化が融合した国際色豊かな文化であった。
- ・唐代の詩は（ ）と呼ばれて盛んとなり、日本などでも教養とされた。
- ・工芸では、（ ）と呼ばれる彩色の陶器がつくられた。

閻立本 …初唐の画家。すぐれた人物画を描いた。

() …盛唐の画家。玄宗の宮廷画家として、山水画や人物を描いた。

李思訓 …盛唐の画家。すぐれた山水画を描き、「北宗画の祖」とされる。



胡旋舞

イラン系の金髪で青い目をした少女が、激しく回転するダンスを踊り、客はワインを飲みながらそれを鑑賞した。長安はまさに国際都市であった。



ポロをする唐代の人

ポロは馬に乗って棒で球を打つ競技で、ペルシアから唐に伝わった。現在でも行われており、ポロをやる時に着るシャツをポロシャツという。



唐三彩

クリーム色、緑、赤、もしくは緑、赤褐色、藍というように、3色の組み合わせで色がつけられていることが多いので、三彩という。

() …盛唐の詩人で画家。自然を詠んだ詩人として知られる。

山水画を描いた画家としても有名で、「南宗画の祖」とされる。

() …盛唐の詩人で、「詩仙」とされる。酒好きで有名。

() …盛唐の詩人で、「詩聖」とされる。「春望」や「兵車行」など、現実社会の苦しみをうたった詩が多い。

() …中唐の詩人。平易でわかりやすい詩が多い。「長恨歌」が有名。



李白

とにかくお酒が大好きだった。玄宗に仕えたこともあるが、酔っ払って暴言を吐き、クビになって追放された。死に方も有名。



杜甫

一生貧乏であちこちを転々とし、あまり幸せな生涯だったとは言えない。そのぶん人間社会の哀しみを表現した名作が多い気がする。国破れて山河在り…。



白居易(白樂天)

詩と文の総数は、唐の詩人の中でも最多の3800! 『枕草子』や『源氏物語』も、白居易の影響を受けているとされる。

() …唐初の儒学者。五経の注釈書である『 』を編集した。

() と () …ともに中唐の文章家で唐宋八大家のひとり。漢以前の古文復興を主張した。

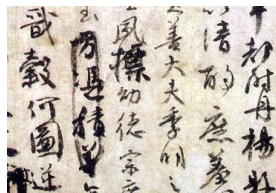
虞世南・欧陽詢・褚遂良…書道にすぐれ、初唐三大書家とされる。

() …盛唐の書家。力強い書風で知られた。政治家としても活躍し、安史の乱の際には、義勇軍を率いて反乱軍と戦った。



韓愈

六朝以来の四六駢儷体を、「言葉の華麗さばかりを追い求めていて内容に乏しい文章が多い!」と批判。



顔真卿作「祭姪文稿」

書道の歴史では、王羲之と並ぶビッグネームである。流麗な王羲之に対し、顔真卿は力強さと穏やかさを兼ね備えているとされる。



陸羽

最古の茶道に関する本である『茶経』を書いた。唐代には庶民の間にもお茶を飲む風習が広まり、続く宋代には政府によって専売とされた。